

活動報告書

報告者氏名： 赤嶺太亮

所属：沖縄県立那覇特別支援学校

記録日：2015年1月30日

【対象児の情報】

○学年：小学部1年 男児A（写真1）

○障害名：知的障害 肢体不自由（新版K式発達検査 全領域3歳2ヶ月）

○障害と困難の内容

- ・A児は1歳から学校に隣接された施設に入所しており、家族・A児ともに離れて暮らす寂しさや不安を感じている。
- ・脳性まひによる四肢の機能障害。
- ・飛ばし読みをする、3文字以上の語句が読み取りづらい、形を捉えづらいなど見え方に偏りが見られる（外斜視、眼振あり、追視が苦手）。



写真1 対象児A

【活動目的】

○当初のねらい

学校に隣接された施設に入所しているA児に対して、家族とiPadを用いた遠隔地コミュニケーション（メールやFacetimeなど）を行う。A児が「離れていても想いは繋がっている」を実感することで、A児が抱える家族と離れて暮らすことへの寂しさや不安の軽減を図る。その結果、A児が心理的に安定した生活が送れるようになり、学校や施設内での人間関係作り、学習意欲の向上にも繋がるのではないかと。

○実施期間：2014年5月1日（木）～2015年1月30日（金）

○実施者：赤嶺太亮

○実施者と対象児の関係：学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・A児は1歳から学校に隣接された施設に入所しており、家族・A児ともに離れて暮らす寂しさや不安を感じている。
- ・祖父母宅に外泊した際には「寂しいな」「いつ自分はお家から学校に通えるようになるの?」と言うことがよくある（保護者からの聞き取り）。
- ・A児の気持ちは日によって不安定でデリケート。「〇〇で遊びたい!」「勉強する!」と積極的にアピールする日もあれば、本当はやりたいのに発言することを躊躇したり「別に遊びたくないよ（本当は遊びたい）」「明日は受診だからお休みします（本当は学校に行きたい）」「明日の行事にはお母さんは来ないと思う（本当は来てほしい）」など、気持ちとは逆のことを言ったりすることがある。そうした言動は、週明けの月曜日や保護者が学校に会いに来て帰ったあとに多くみられる。
- ・iPadでのタイピングは、日本語入力で行っている。しかし、文字の処理速度が遅いため、タイピングする前に時間をかけて思考し、タイピング後の読み返しにも時間がかかる。
- ・何事にも積極的に取り組むことができるが、嫌なことや思い通りにいかないことがあると極端に落ち込むことがあり、それが学習意欲に影響することがよくある。

○活動の具体的内容

A児と家族が互いに「離れていても想いは繋がっている!」を実感できるようにするために、A児と家族間で遠隔地コミュニケーション（メールやFaceTimeなど）で、録音した音声、画像、動画を送り

合ったり、会話したりできるようにした（図1）。活動当初は、「お楽しみタイム」と称して4校時に週3～5回のペースで母親や祖父母とやりとりをし、返信メールについては5校時に確認していた。10月からは、授業や休み時間等の状況を考慮しながら、A児が「やりとりしたいとき」を基本にいつでもやりとりできるようにした。



図1 実践のイメージ図

既存のカメラ、メール以外に以下のアプリを使用した。



アプリ「記録プロ」

録音フォーマットを mp3 や wav など4種類から選ぶことができる。録音した音声をそのままメールに添付して送信できるようにした（以下、ボイスメール）。「時間がかからずメールで簡単に送ることができる」「直接お互いの声を聴くことができる」「録音データが残るためいつでも聴きたいときに繰り返して聴くことができる」という点が、A児にとっては良かった。



アプリ「FaceTime」

Wi-Fi を経由して、音声通話、ビデオ通話ができる。自宅に帰宅した際の予定や迎えの時間を聞くこと、「おじいちゃん顔が赤いね！日焼けしたの？」など会話があり「直接顔を合わせて会話ができる」「コード、カメラ、マイクの準備の必要がなく携帯電話のような感覚で使うことができる」という点が、A児にとっては良かった。



アプリ「ByTalk」

イメージはLINEと同じ。完全にクローズドなSNSアプリのため安全。このアプリ一つで文章、画像、動画、ボイスメッセージでやりとりすることができる。「メールより気軽に送ることができる」「吹き出しで描かれているためのやりとりしているような感覚が得られやすい」という点が、A児にとっては良かった。

○対象児の事後の変化

当初、A 児はメールでやりとりすることがどういうことか理解できていなかったが、家族と FaceTime やメールをする中で「離れていてもやりとりできるんだね！楽しい！」という発言が聞かれるようになった（写真2）。4 校時にメールができるとわかっている A 児は、1～3 校時の学習中に「写真撮ってください！おばあちゃんに送りたい！」などメールを楽しみにしているようであった。



写真2 メールをする A 児

また、学校生活の中で家族に関する発言が増えた。例えば、ふとしたときに「お母さんなにしてるかな?」「おじいちゃんは今頃なにしてるかな?」などである。

特に、A 児が楽しみにしているのが祖父母との Facetime でのやりとりである。毎回、祖父母と「今日は〇〇したよ！金曜日迎えにくる?じいじいお仕事頑張ってる?」など、楽しく会話する様子が見られた（写真3）。



写真3 FaceTime で会話と楽しむ A 児

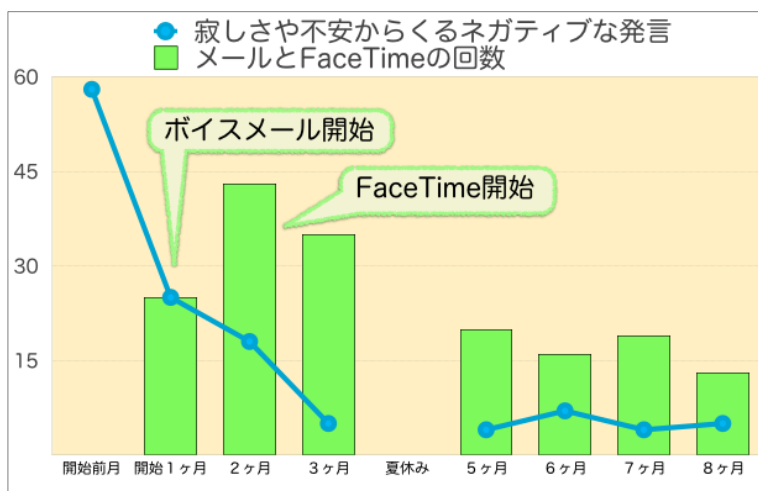
このような取り組みを続ける中で、A 児の不安や寂しさからくる「明日の行事は誰も来ません（本当は来てほしい）」といったネガティブな発言が少なくなり、「次の行事にお母さん来てほしいな！メールで聞いてみる!」「週末お家に帰った！楽しかった!」といった発言がよく聞かれるようになった。また、気持ちの切り替えがとても上手になった。家族のいる自宅から施設へ帰ってきた後の登校であっても「今日は勉強したくありません」といった発言が少なくなった。「今日も FaceTime で話す〜!」「100 点取ったら見てもらう」と言って気持ちも安定し学習に意欲的に取り組めるようになったことが大きな変化である。

【報告者の気づきとエビデンス】

1. 家族と離れて暮らす寂しさや不安からくるネガティブ発言の減少

不安や寂しさからくるネガティブな発言、例えば「今日はお家に帰りません（本当は帰る）」といった発言の回数を、メールや FaceTime の開始時期に沿って表した（グラフ 1）。

その結果、FaceTime やメールの開始時期に沿って寂しさや不安さを表す発言が減ったことがわかった。これは、入学して間もない A 児が、新しい環境に慣れ始めたこと、教師とのラポートがとれはじめたことにより A 児が自分の気持ちを素直に伝



グラフ1 やりとり回数とネガティブ発言について

えられるようになったことなども要因として挙げられる。しかし、その点を考慮しても A 児にとって iPad の存在は大きく、A 児と家族間の FaceTime やメールでやりとり通して得られた安心感（離れて

いても想いがつながっている)はA児の心にしっかりと定着した結果だと考える。

特に、FaceTime ではテスト結果や作品を観てもらい祖父母からコメントをもらう、そして「今日の表情はいいね。元気そう!」といった会話があった。こうしたやりとりは、A児の学習意欲にも大いに影響を与えるものであったと考える。5ヶ月目、6ヶ月目は、iPad を壊してしまい家族と連絡がとれない時期があった。ネガティブ発言が少し増えたことについては、このことが関連していると考えられる。

2. ボイスメールの内容の変化について

家族とのボイスメールの内容が、開始当初の「〇〇したよ」といった報告のようなものから、自分の学習意欲など気持ちを表現するような内容へ広がっていることがわかった(表1)。

日付	表1 ボイスメールの内容
5/29	音楽したよ。楽しかったよ!
6/20	お兄ちゃんの声が聴きたい!送ってください!
7/15	ばあばあ電話ありがとう。声が聴けて良かったね!楽しいね!学校は厳しいけど頑張るよ!
11/12	病院大丈夫だった?早く治るといいね!

3. 入所する施設職員からの聞き取り

「対象児からよく母親や祖父母の話が聞かれるようになった」「メールや FaceTime でのやりとりの話を楽しそうに教えてくれる」「嫌なことがあっても落ち込むことが減った」など、施設職員からの聞き取りで、施設でも学校と同じような変化が見られることがわかった。

【今後の見通し】

- 家族とメールする中で、A児から「家族以外の人とメールしてみたい」という発言が聞かれるようになった。こういった発言はできてほしいと期待していた点である。家族だけでなく、例えば苦しいときに助けてくれる、相談できる相手を作って行く、そのために友達、施設職員や学校の先生、など家族以外の人とやりとりを拡げていきたい。
- 学習意欲が高まってきたA児に対して、2学期以降 iPad を学習や生活の中で活用できるように進めてきた。例えば、校外学習の行先を「Google earth」を使って調べたり、日付が分からなくなったらカレンダーアプリで調べたりなどである。A児は、脳性まひによる上肢の機能障害があり、視知覚にも偏りがみられる。そのため、学習において筆記や教科書・教材の提示など、様々な場面で iPad の活用の可能性がある。今後は、学びに対する意識を高めていくなかで、A児の抱える困難さへのアプローチとして適切に iPad を活用していきたい。